

令和3年度「志教育」実践事例

宮城県泉高等学校

1 題材名

「社会課題の解決策を探る」（総合的な探究の時間）

2 対象学年

第1学年

3 授業概要

「社会課題の解決策を探る」というテーマのもと、生徒自身が興味・関心に基づいて課題を設定し、外部人材との協働を図りながら活動を行う。「誰のために」活動を行うのか、「誰と」連携して活動を行うのかを明確にし、実際に課題解決に向けてのアクションを起こすことを重視する。なお、本授業では、解決できると10人以上がハッピーになれることを「社会課題」と定義する。

（個人で課題を設定した後、類似の課題に取り組もうとする生徒で、必要に応じてグループを作る）

→ 第1学年は、生徒が設定した課題を19のジャンルに分類し、277名の生徒が68のグループに分かれて活動しています。

4 志教育の視点

- 【かかわる】 (1) 「情報の収集」の過程において、外部人材との連携を図る等、さまざまな人との関わりを通して、理解を深めることができる。
- 【もとめる】 (1) 「情報の収集」や「整理・分析」の過程において、さまざまな知識が密接に関連していることを実感することができる。
- 【はたす】 (1) 生徒自身の興味・関心に基づいてテーマを設定し、必要に応じてグループを作ることにより、集団の中での自己の役割を認識することができる。
(2) 自己の役割を果たすことにより、自己肯定感を高めることができる。

5 活動計画（下記4項目は、新学習指導要領解説【総合的な探究の時間編】の記載に準ずる）

[課題の設定]

8月下旬～9月中旬 課題の設定【個人ワーク】

※ 本校は8～9月に分散登校となり、登校している生徒と自宅待機の生徒で別作業を行いました。また、この期間が終わった後、類似の課題に取り組もうとする生徒で話し合い、グループを作りました。

[情報の収集]

10月上旬～11月中旬 情報収集（場合によっては課題の再設定を行う）

※ 「情報の収集」の過程において、宮城学院女子大学の先生方の協力を得て、オンラインで生徒の質問等にお答えいただきました。また、情報収集の際に「河北新報データベース」を活用しました。

[整理・分析]

12月上旬～12月下旬 収集した情報の整理・分析

[まとめ・表現]

1月上旬～2月上旬 まとめ・表現（発表会の準備・アクションの実践に向けての準備等）

※ コロナ禍のため、当初4月中旬に実施予定であった「最終発表会」を5月下旬に延期しました。また、泉区役所や「富谷塾」塾生等とオンラインで繋ぎ、生徒の学びの「伴走」にご協力いただいております。特に、「富谷塾」塾生の皆さまとは、平日の夜や土・日・祝日を利用し、3～4回のオンライン講座を実施しております。

6 活動の様子

「課題の設定」の過程が生徒にとって難しかったようであるが、多くの生徒が自身の興味・関心に基づいて「課題」を設定した後、グループ毎にインターネットや「河北新報データベース」を活用して情報収集を行い、その解決策を探る活動に取り組んだ。

当初は、課題解決に向けて「アクションを起こす」ことを重視する予定であったが、外部協力者を募るのが難しかったこともあり、集めた情報をまとめるだけの形になってしまったグループも少なくない。その一方で、泉区役所や「富谷塾」塾生等に協力を依頼し、外部協力者との連携ができているグループは、充実した活動を実践することができている。



宮城学院女子大学の先生にインタビューする様子



泉区役所区民生活課にアンケート掲示を依頼する様子

7 成果と課題

上述のように、多くの生徒にとって「課題の設定」が難しかったようであるが、概ね期待通り活動してくれたと感じている。

反省材料としては、分散登校等のために度重なるスケジュール変更が生じてしまった点、オンラインで繋がれる外部協力者を十分に確保できなかった点等が挙げられる。また、フィールドワーク等が実施できず、やむを得ない状況ではあったが、地域と連携して解決策を実践するというところまで至らなかった。次年度以降も同様の活動を行う際には、社会との関わりの中でより強く自己肯定感を高めることができるような活動にしたい。